

2013 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

| | |
|------------|--|
| 対象部局 | 国際比較政治研究所 |
| 評価基準 7 | 教育研究等環境 |
| 点検・評価項目(4) | 7-4 教育研究等を支援する環境や条件は適切に整備されているか。 |
| | 研究所の運営体制の適切性 |
| | 研究会、セミナー、シンポジウム等の開催および学術雑誌の刊行状況 |
| 点検・評価項目(6) | 7-6 教育研究等環境の適切性について定期的に検証を行っているか。 |
| 評価の視点 | 責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。 |

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

| | |
|-----|--|
| 7-4 | <ul style="list-style-type: none"> ・年度ごとに客員研究員を含む形で共同研究プロジェクトを募集し、運営委員会での審議を経てプロジェクト・チームを編成している。平成 25 年度は(1)「英・独・日における立憲主義体制に関する比較研究」、(2)「大正・昭和期の日本政治の諸相—対外認識を中心に—」、(3)「災害時の地方議会、議員活動の研究」、(4)「地方教育行政に関する研究」、(5)「政治学基礎的教育・共通テキスト編纂に関する共同研究」の 5 つのチームを編成した。 ・上記プロジェクト・チームのうち、(1)と(2)はとくに比較政治研究の推進という本研究所の目的に、(3)と(4)はタイムリーなテーマを設定して社会の知的ニーズに応えらるとともに研究成果を社会に還元するという目的にそれぞれ合致している。また(5)は教育改善に資するうえで重要な意義を有している。 ・共同研究プロジェクト・チームごとに研究所予算を配分し、不十分ながらも共同研究を資金面で支えている。 ・研究所規程に基づき、学部長、研究科委員長および学科主任を含め計 8 名からなる運営委員会が研究所の運営について審議し、方針を定めている。また学部長が幹事として運営委員会に臨席し、事務局との連携を図っている。 ・研究会は年 9～10 回の開催を予定している（ただし 2013 年度は 7 回開催に留まった）。 ・学外から研究者を招聘し、毎年 11 月、学生を主たる対象にシンポジウムを開催している。平成 25 年度は国際情勢の変化を踏まえ、「中韓露の新指導者と東アジア—経済・エネルギー、領土、歴史認識—」というテーマの下に中国・韓国・ロシアのそれぞれの専門家を招いてシンポジウムを開催した。 |
| 7-6 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究所の専任研究員、兼任研究員および客員研究員の選任と研究班編成については年度ごとに教授会の審議・承認を得ている。 ・運営委員会が年度ごとに研究組織の適切性について判断しつつ、共同研究プロジェクトを募集・編成している。 ・年度最初の運営委員会において、共同研究プロジェクト・チームへの予算配分、開催するシンポジウムのテーマなどについて審議している。 ・シンポジウムについては運営委員会でテーマと講師を選定し、事前に教授会での審議・承認を受けている。 |

【効果が上がっている事項】

| | |
|-----|---|
| 7-4 | <ul style="list-style-type: none"> ・研究活動の成果が本研究所の研究会およびニューズレターで報告されている。 ・共同研究プロジェクト・チームによる共著書の出版：武田知己、萩原稔編著『大正・昭和期の日本政治と国際秩序』。 ・国際比較政治研究所叢書の刊行：斎藤哲郎著『チャイナ・イデオロギー』（2014 年 2 月刊行）。 ・シンポジウム報告集として『国際比較政治研究』（年報）23 号の発刊（2014 年 3 月刊行）。 ・『国際比較政治研究』（年報）と『ICPS ニューズレター』を全国の大学図書館に送付している。 |
| 7-6 | <ul style="list-style-type: none"> ・運営委員会の会議に常設事務局（アルバイト職員）をオブザーバーとして参加させることで、討議の効率化が図られた。 |

【改善すべき事項】

| | |
|-----|--|
| 7-4 | <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究プロジェクトに加わる客員研究員に対して資料収集などの出張費を増額し、資金面で支援を強化する必要がある。 |
| 7-6 | |

III 本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

| |
|-------------------------------|
| 上記（項目 7-4）出版物、運営委員会議事録、教授会議事録 |
|-------------------------------|

【2014 年度からの達成目標】

【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

| 達成目標 | 目標達成の指標となるもの | 評価 | | | | | |
|-------------------------|--|------|------|------|------|------|--|
| | | 2014 | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | |
| 中期目標 (2014～ 2018) | <ul style="list-style-type: none"> ・共同研究プロジェクトを通じた研究活動を推進する。 ・研究会が定期的に開催されている。 ・共同研究プロジェクト・チームが複数編成され、それぞれ研究成果を公表して | → | | | | | |

学部附置研究所

| | | | | | | | | |
|------------|---------------------------|-------------------------------|---|--|--|--|--|--|
| | | いる。 | | | | | | |
| | ・シンポジウムを毎年度開催する。 | ・シンポジウムが毎年度開催されている。 | → | | | | | |
| | ・研究所叢書の隔年発行を継続する。 | ・研究所叢書が隔年発行されている。 | → | | | | | |
| 14年度 目標 | ・共同研究プロジェクトを通じた研究活動を推進する。 | ・複数の共同研究プロジェクト・チームが編成されている。 | | | | | | |
| | ・研究会の活発化を図り、年 9 回開催する。 | ・研究会が年 9 回開催されている。 | → | | | | | |
| | ・客員研究員に支給する旅費を増額する。 | ・前年度に比し、客員研究員に対する旅費が増額されている。 | → | | | | | |
| | ・シンポジウムを開催する。 | ・シンポジウムが開催され、報告集「年報」が公刊されている。 | → | | | | | |